

Fax

042-713-5082

相模女子大学子育て支援センター主催

2015年度子育て支援セミナー 申込用紙

「幼児期・学童期のインクルーシブ教育の展望」

<申込情報>

ふりがな	
氏名	
住所	〒 ー
電話番号	
メールアドレス	
ご職業 (該当に○)	保育士・幼稚園教諭・教員・臨床発達心理士 臨床心理士・療育関係者・その他()
国際講演会(8月8日)	参加 不参加
備考	

※複数名申し込まれる場合でも全員分明記してください。

<メール申し込み>

メール申し込みの場合は、メールタイトルを「子育て支援セミナー申込み」として、上記の申し込み情報を明記して以下のアドレスまで送信してください。また複数名申し込まれる場合でも全員分明記してください。

宛先：kosodateshien@mail2.sagami-wu.ac.jp

<個人情報の取扱いについて>

セミナー参加申込により、お知らせいただいた氏名、住所その他の個人情報は、本セミナーの運営や相模女子大学子育て支援センターが主催する各種講演会・セミナー等のご案内のみに使用し、漏洩・滅失・毀損等がないよう安全に管理します。

2015年度

子育て支援セミナーのご案内

相模女子大学では、子育て支援に取り組み、セミナー等を開催しています。
皆様のご応募お待ちしております。

テーマ：「幼児期・学童期のインクルーシブ教育の展望」

参加対象者：相模原市及びその周辺地域の専門家

(保育士、幼稚園教諭、教員、臨床発達心理士、臨床心理士、療育関係者等)
定員 40名

会場：相模女子大学

7号館2階721教室

日時：8月29日(土)・30日(日)

午前10時00分～午後15時00分(開場 午前9時30分)

※お昼休みを挟みます。

※当セミナー受講者は、8月8日(土)13:00～17:00に行われる国際講演会
「デンマークにおける幼児期のインクルーシブ教育と家族支援」に無料で参加できます。

受講料：4000円

※第1回受講時にご納入いただきます。

申し込み締切：8月15日(土)

申し込み方法：Faxもしくはメールにてお申し込みください。

お申し込みされた方には、事前に「受講証」を郵送します。

Fax：042-713-5082 ※裏面の申込用紙を送信してください。

Mail：kosodateshien@mail2.sagami-wu.ac.jp

※メールタイトルを「子育て支援セミナー申込み」として、裏面の申込用紙の情報を
明記して送信してください。

お問い合わせは上記メールアドレスへお願いいたします。

「幼児期・学童期のインクルーシブ教育の展望」

国際講演会スケジュール

日程	テーマ	講師
8月8日(土) 13:00~17:00	デンマークにおける幼児期の インクルーシブ教育と家族支援	Inge Lise Andersen スティンダーレン障害児幼稚園園長 Lene Lyng フレデリシア市特別支援相談員・家族支援員 通訳：銭本 隆行氏 日欧文化交流学院院長

セミナースケジュール

回	日程	各回テーマ	講師
1	8月29日(土) 10:00~12:00	障害者権利条約を、身につける	河尾 豊司 相模女子大学学芸学部子ども教育学科・教授
2	8月29日(土) 13:00~15:00	相模女子大学幼稚部における インクルーシブ教育の実際と課題	齋藤 正典 相模女子大学学芸学部子ども教育学科・教授 同大学幼稚部園長
3	8月30日(日) 10:00~12:00	理念や「べき」論だけでは進まない インクルーシブ教育	久保田 力 相模女子大学学芸学部子ども教育学科・教授
4	8月30日(日) 13:00~15:00	障がいをもつ子のきょうだいに関する 研究動向	荻本 快 相模女子大学学芸学部子ども教育学科・専任講師

教育におけるインクルージョンとは

1994年のサラマンカ宣言以降、「個人の差異や困難によらず、全ての子どもを包含できるような教育システムの完全」をはかり、教育にインクルージョンの原則を取り入れることが勧められています。教育におけるインクルージョンとは、全ての子ども達が同じ場で学ぶことを追求していくとともに、個々の子どもの教育・発達のニーズに対して、自立と社会参加を見据えて、そのニーズに対して最も適切な指導・援助を提供していこうとする教育のことで、それができるように学校の環境を整備し、そのような社会を作り上げていこうとする考えです。

相模女子大学へのアクセス

小田急線「相模大野駅」徒歩 12分

相模大野駅の中央改札を出て右へ曲がり北口へ。北口正面（左斜め前）のエスカレーターを降り、伊勢丹まで続くアーケード「コリドー通り」を200mほど直進します。伊勢丹正面にある2階へ繋がるエスカレーターを上がります。伊勢丹入り口前を左に曲がり直進します。階段を下り、「女子大通り」を5分ほど直進します。

お車までのご来場はご遠慮ください。

住所：神奈川県相模原市南区文京 2-1-1
電話：042-742-1411 (代)



各回概要

第1回 障害者権利条約を、身につける

講師 河尾 豊司 | 相模女子大学学芸学部 教授、子育て支援センター員

東京大学法学部公法学科卒。長崎純心大学大学院人間文化研究科福祉文化専攻博士前期課程修了。修士（学術・福祉）。知的障がい福祉実践（35年）の後、相模女子大学子ども教育学科開設に参画。現在に至る。学内で、ダウン症・自閉症児の余暇支援・SSTに向け学生指導。

専門：「社会的養護」の子の人権・知的障がい福祉・障がい者人権史・統合保育・障がい児教育史。現在、児童養護施設SV・障がい者小規模作業所経営（理事）に参画。



概要

昨春日本国のものになった本人権条約の実践が、どうも芳しくない。認識が弱いから、実践がないのである。併し、歴史を画す人権法、大祝祭ものなのである。本人権条約を身に縫いつけ、支援の連帯をしよう。敵は「排除」と「保身」の心。自分の権利感覚のなさを問わないことにしよう。

第2回 相模女子大学幼稚部におけるインクルーシブ教育の実際と課題

講師 齋藤 正典 | 相模女子大学学芸学部 教授、同大学幼稚部園長、子育て支援センター員

玉川大学大学院文学研究科修了。東京学芸大学大学院連合学校教育学研究所満期退学。修士（文学）。盛岡大学児童教育学科（准教授）を経て現職。NPO法人相模原プレイパーク・子どもの居場所ネットワーク理事長、日本体育大学非常勤講師。

専門：保育学、幼児教育学



概要

相模女子大学幼稚部は平成25年度より3年連続で文部科学省のインクルーシブ教育システム構築事業（モデル園）に採択されており、「地域連携型インクルーシブ教育」ということで、地域に在住する発達・療育専門家と保育者との協働によるインクルーシブ教育を実践してきた。そこで、それらの取組の実際について具体的に紹介していきながら、幼稚園におけるインクルーシブ教育の効用と課題について考えていく。

第3回 理念や「べき」論だけでは進まないインクルーシブ教育

講師 久保田 力 | 相模女子大学学芸学部 教授、子育て支援センター員

筑波大学第二学群人間学類（教育学専攻）卒業。同大学大学院博士課程教育学研究科（教育経営学専修）単位取得退学。教育学修士。帝京大学・常葉学園短期大学・浜松大学を経て、2009年度より相模女子大学。日本プレイセンター研究会代表の他、民間保育園2園の理事などを務めている。

専門：比較子ども・子育て文化研究をフィールドに、わが国における「子育て支援」政策をニュージーランドのプレイセンター（子育て相互支援）活動の視点から批判的に考察し続けながら、子育て中の父母と一緒に日本版プレイセンター活動の可能性を模索している。



概要

混合教育論や統合教育論の発展形として、人間の「基本的な人権」論から理想論的・「べき」論的に論じられることの多い「インクルーシブ」教育ですが、現実問題として、その展開と拡大にブレーキをかけているものがあるはずである。今回は、①周囲の父母たちの障害乳幼児をめぐる意識 ②保育士たちの不安や負担感という観点から、「インクルーシブ」教育の今後の課題について考えてみる。

第4回 障がいをもつ子のきょうだいに関する研究動向

講師 荻本 快 | 相模女子大学学芸学部 専任講師、子育て支援センター員

国際基督教大学教養学部理学科卒 国際基督教大学大学院教育学研究科博士前期課程修了。修士（教育学）。心理療法専門機関にて、遊戯療法（プレイセラピー）、心理療法（サイコセラピー）を実践。

専門：「臨床心理学」「発達心理学」「教育心理学」、子どもの遊戯療法、幼児期の問題をもつ青年期・成人に対する心理療法。



概要

障がいをもつ子のきょうだいは、家族の中で様々な思いを抱えて育つ。きょうだいが情緒的な問題を呈する例も少なくない。きょうだいの心理学的発達に関する基本的知識と最近の研究動向を紹介し、具体的な介入法とその効果について解説する。

